

2019/6/15(土)13:50-16:50 (受付開始 13:00)

がんプロフェッショナル研究会

医薬品添付文書とPGx 情報:がん薬物療法における個別化医療の実際 / がんゲノム医療における薬剤師の役割

※下記3種類の単位を取得できます(後日郵送いたします)

- ・慶應義塾大学薬学部生涯研修認定単位 2単位
- ・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師講習(研修)認定単位 2単位
- ・日本医療薬学会認定 がん専門薬剤師講習会・教育セミナー認定単位 1単位

講座情報

「医薬品添付文書とPGx 情報:がん薬物療法における個別化医療の実際」

辻 大樹

薬物の応答性は患者ごとに大きく異なり、一塩基多型(SNPs)に代表される遺伝的要因が大きく寄与していると考えられている。がん領域においては、近年のゲノム研究の進展により、EGFR や ALK 遺伝子など体細胞のゲノムバイオマーカーを用い、治療開始前に薬物の応答性を評価したうえで、個々の患者に最適な抗がん薬を投与するプレシジョン医療の臨床実装が急速に進展している。また、2018年7月には、遺伝性乳がん・卵巣がん症候群(HBOC)にかかわる生殖細胞系列のBRCA 遺伝子変異の有無を確認して投与の可否を判断するオラパリブ(リムパーザ®)の医薬品添付文書改訂が行われる等、医薬品添付文書にゲノムバイオマーカーに関する情報が記載されるものが増えてきている。本講演では医薬品添付文書に記載があり、臨床応用が始まっている医薬品を中心に遺伝子情報を活用した個別化医療の現状について概説する。

《学習到達目標》

- ・ファーマコゲノミクスに関する情報が医薬品添付文書に掲載されている代表的な抗がん薬を把握する。
- ・治療薬選択や投与量調整の場面でファーマコゲノミクス検査の結果解釈についての基本的知識を習得する。

「がんゲノム医療における薬剤師の役割」

寺田 智祐

がんは、ゲノム(分かりやすく言い換えると遺伝子)の変異が集積された病気です。がん細胞の遺伝子変異をくまなく調べて、その遺伝子変異に対して効果の期待できる抗がん薬がある場合には、患者さんの病状や体質にあった抗がん薬を投与することができます。このような治療戦略を「がんゲノム医療」と言い、がん細胞の変異をくまなく調べる検査のことを「がん遺伝子パネル検査」と呼びます。2019年度から、この「がん遺伝子パネル検査」が保険適用される予定であり、日常診療として広まる可能性があります。しかし、この検査をしたからといって、必ずしも効果の期待できる抗がん薬が見つかる訳ではなく、また見つかったとしても、保険適用外や国内では未承認といったケースも少なくありません。このような問題点を解決する一つの方法として、遺伝子の異常に応じた抗がん薬の保険適用という戦略があり、従来の大腸がんや肺がんといった臓器ごとの保険適用からのパラダイムシフトも起こりつつあります。

本公開講座では、「がんゲノム医療」の概要と、そのような新しい医療の中で、薬剤師に求められる役割についてご紹介したいと思います。

《学習到達目標》

- ・がんゲノム医療の概要について理解できる
- ・体細胞変異と生殖細胞変異の違いについて理解できる
- ・ファーマコゲノミクス情報の活用方法について理解できる
- ・遺伝カウンセリングの概要について理解できる

講演者情報

「医薬品添付文書とPGx情報：がん薬物療法における個別化医療の実際」

辻 大樹

静岡県立大学 薬学部薬学科・薬学研究院 講師

プロフィール

- 1998年 明治薬科大学薬学部衛生薬学科卒業
- 2000年 明治薬科大学大学院臨床薬学専攻修了
- 2000年 聖隷浜松病院薬剤部
- 2005年 聖隷淡路病院薬剤科
- 2007年 聖隷浜松病院薬剤部係長
- 2009年 静岡県立大学 薬学部 臨床薬効解析学分野 助教
静岡県立総合病院 臨床指導薬剤師
- 2015年 博士(薬学)取得(静岡県立大学)
- 2017年 静岡県立大学 薬学部 臨床薬効解析学分野 講師

現在に至る

所属学会・委員など

日本医療薬学会(認定薬剤師、指導薬剤師)

日本臨床薬理学会

日本癌治療学会

日本臨床腫瘍学会

日本臨床腫瘍薬学会

日本災害医療薬剤師学会

静岡県病院薬剤師会 学術部 がん専門薬剤師部門 委員

日本医療薬学会 医療薬学学術第2小委員会 委員

受賞

第1回江口記念がん優秀論文賞(日本病院薬剤師会)

主要著書

新臨床腫瘍薬学(株式会社 じほう)

薬物療法問題集 コモンな 50 疾患・150 題で実力がつく！（株式会社 じほう）

参考サイト

静岡県立大学 薬学部 臨床薬効解析学分野

<https://w3pharm.u-shizuoka-ken.ac.jp/clinphar/>

国立がん研究センターがん対策情報センター「がん情報サービス」

<https://www.ncc.go.jp/jp/cis/divisions/info/ganjoho/index.html>

「がんゲノム医療における薬剤師の役割」

寺田 智祐

滋賀医科大学医学部附属病院 教授・薬剤部長

プロフィール

1994 年 3 月	京都大学薬学部卒業
1999 年 3 月	京都大学大学院薬学研究科博士後期課程修了
1999 年 4 月	日本学術振興会特別研究員 (PD)
2000 年 4 月	京都大学医学部附属病院薬剤部 助手
2002 年 4 月	マサチューセッツ総合病院 リサーチフェロー
2003 年 4 月	京都大学医学部附属病院薬剤部 助手
2008 年 4 月	京都大学医学部附属病院薬剤部 副薬剤部長
2010 年 2 月	滋賀医科大学医学部附属病院薬剤部 教授・薬剤部長

受賞

日本膜学会研究奨励賞 (2000 年)、第 44 回日本癌治療学会優秀ポスター賞

2007 年度日本薬学会奨励賞、2010 年度日本薬物動態学会奨励賞

2016 年度日本薬学会佐藤記念国内賞

主要著書

- 1) 寺田智祐: がんゲノム医療と薬剤師, 医薬ジャーナル, 54 (2), 229-231 (2018)
- 2) 安藤雄一・寺田智祐 編集、南 博信 監修: ハイリスク患者のがん薬物療法ハンドブック～多様化・複雑化する患者への治療戦略を身につける～, 羊土社 (2017)

参考サイト

滋賀医科大学医学部附属病院薬剤部: <http://www.sums-pharm.jp>